

第七回留学報告書

2020年度 Funai Overseas Scholarship 奨学生 / MIT EECS PhD Candidate

五十嵐祐花

2023/08/16

目が回るほどに忙しかった春学期が終わり、カリフォルニアでインターンをしながら余裕がある夏を過ごしています。PhD前半戦が終わり、これから後半戦に突入する節目の時期で、改めて気を引き締めて研究に取り組もうと決意しています。

春

春学期は2つの研究プロジェクトの学会締め切り、学部生の授業のTA、Amazonでのパートタイムインターンに加えて、クラスメイトとHarvard Business School (HBS)の授業を取りながらスタートアップをやっており、ほぼ一度も学外で友達と会う時間が作れないほど忙しかったです。かなり燃え尽きましたが、同時に得難い経験を沢山させてもらいました。

TAをやったり学部生のメンターをしたことで、教えたり学部生と関わるのが大好きであることに気づき、PhD後の進路としてファカルティーを目指すのも良いかなと思い始めました。今までアカデミアはあまり考えて無かったので、自分の中ではとても大きい変化でした。それに伴い、後2,3年でアカデミアを目指せるくらいの研究成果を出したいという目標が定まりました。

スタートアップは春学期が終わった時に皆で話して続けられないことにしましたが、本当に良い経験になりました。チームメイトの二人が本当に素晴らしく、いつも集まるのが楽しみでした。学外で毎週集まってコーディングしたりミーティングしたりpitch deckを作ったりという経験は純粋に楽しかったですし、AngelやVCの人たちとも沢山お話をさせて頂き、今まで漠然と憧れていたスタートアップ業界の現実を知ることが出来た気がします。今まであまりビジネスサイドの人と関わったことが無かったのですが、チームメイトやHBSで会った人々を通して、ビジネスができる方々への尊敬が増しました。



チームメイトとの最後の晚餐

CMUの共同研究者とやっているサイドプロジェクトの締切が1月にあり大変でしたが、無事SIGGRAPHという学会に通る事ができ、主著の学生がつい先日学会で発表を行いました。4月にメインプロジェクトのExoの締め切りもあって凄く頑張っていたのですが、最後

には指導教官がもっと野心的なストーリーが作れるというようなことを言って秋締め切りの学会に出すことになりました。

夏

春学期を乗り越え、私のPhDはExoと共に生き、Exoと共に死ぬのだなという覚悟が固まりました。野心的な事をしようとしているので、上手くいったら恐らくファカルティーになれますが、上手くいかなかったら困ったことになるかもしれません。

実際に使ってもらえるプログラミング言語を作ること为目标に今まで頑張ってきて、実際AppleとAmazonで合計1年以上インターンをしながら彼らがExoを使ってくれるように、彼らのハードウェアをサポートすることで布教活動に勤しんでいました。実際にインターンをする事で彼らが抱えている問題を知ることが出来ただけではなく、自分自身のキャリア的には大企業で働く雰囲気や、どのような組織構造で動いているのか分かることが出来たのが大きい収穫でした。Appleでインターンをするのは去年に引き続き2回目ですが、今年の方がアウェイ感が少なく楽しいですし、インパクトが大きいプロジェクトにExoを使ってもらうことが出来ました。

企業とのコラボレーションに前向きな指導教官の後押しもあり、研究から生まれたプログラミング言語にしてはインダストリーでも上手く行っている方だと思いますが、それと同時にカスタマーサポートのような事はやり切った感があり、若干燃え尽きてもあります。企業とのコラボレーションは見返りも大きいですが時間が取られて研究が進まなくなるので、これからしばらくは研究に集中したいと思っています。

夏の間はそれ以上に、今までの人生で一番良いルームメイトを得て毎日が充実しています。Appleがインターン生の為に寮のようなものを準備してくれてそこでランダムに割り当てられたルームメイトなのですが、不思議なくらいに気が合っています。インターンが仮に面白く無かったとしても、このルームメイトに会っただけでインターンに来た価値があったなと思います。特に一緒に何か面白いことをしているわけでも無いのですが、仕事が終わって家に帰ってきて晩御飯を作って食べたり、深夜まで話し込んだり、映画を見てああだこうだ議論したり、コストコでさくらんぼを3パックまとめ買いして全部食べたり、地味ですけど大人の青春をしてるなあと感じます。ルームメイト以外にも今年のAppleはインターンがまとまって住んでいるため集まりやすく、沢山知り合いを作ることが出来ました。



藤田くん、スタンフォードを案内してもらった時の写真。左上から時計回りに、インド人の友達、私、ルームメイト、藤田創くん、母親

7月末に私の母親が1週間ほど遊びに来てくれて、一緒にサンフランシスコやMuir woods, Adobe, Google, Apple等に行きました。2020年度生の藤田くんがスタンフォードを案内してくれましたし、インターンの間に出来た友達に紹介したり、Apple日本人飲み会にも連れて行ったりと、出来るだけシリコンバレーの雰囲気を感じてもらおうと予定を組みました。結構喜んで貰えたので嬉しかったです。



クルーズでゴールデンゲートブリッジを通った時の写真。強風で寒かった。

財団生になってから初めての船井の夏の交流会は本当に貴重な経験でした。名前は知っていてもお会いしたことが無かった方々と仲良くなることができ、年上の方も年下の方も以前より身近に感じる事が出来るようになりました。船井財団の学生は皆仲が良く、研究でもキャリアでもお互いに助け合う雰囲気に居心地の良さを感じます。交流会が来年以降も続けられることを切に祈っています。

結びになりますが、留学を実現するチャンスを与えてくださった船井情報科学振興財団の皆様 に誠に感謝いたします。この場をお借りして、深くお礼申し上げます。